

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 7月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	4072500509
法人名	社会福祉法人 大川鶴喉会
事業所名	グループホーム こすもす苑
所在地 (電話番号)	大川市大字大野島855番地 (電話) 0944-87-5533
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 6月 1日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費	有り
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900円

(4) 利用者の概要(平成 19年 4月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.9 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木病院、高宮クリニック、おおかわメンタルクリニック、柿添歯科クリニック
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺には田園が広がり、大川市のシンボルである大川昇開橋がながめられるところに位置している。法人名は「大川鶴喉会」とし、鶴が懐かしく、心安らぐふるさとに戻るという意味で付けられ、また、ホーム名は周辺にコスモスがいっぱい咲くことから「こすもす」とつけている。コスモスに限らず四季の変化を楽しめる環境にある。同系列の小規模多機能型サービス事業所には温泉が出ており、ホームの利用者はいつでも温泉に入ることができる。ホーム内の入浴も、利用者の希望に応じて支援をしており、現在最後の人は午後8時ごろの支援となっている。理念は「敬愛」一つのみであるが、基本方針に地域密着を掲げ、地域の保育園・小学校・地域のマラソン大会の参加や応援、ボランティアの受け入れ等、地域の人たちと交わる機会を多くもっている。また、ちょっとした市内の催しの機会を大いに活用している。日常の買い物他に、利用者の希望で観光名所や温泉、宮参り、外食等、月2回の外出を行っており、利用者が楽しみにされている。ホームの犬や猫は住人の一員として、利用者の慰めになっている。法人名が示すように戻ってきて落ち着くことのできる暖かみある家庭的な雰囲気のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価に対して改善への取り組みを行っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はサービス評価の意義や目的を理解し、全職員で取り組んでいる。またサービス評価を質の向上に向けて真摯に前向きに捉えている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の参加者は、利用者・家族・市行政・地域代表として民生委員であり、且つ法人理事の人である。できるだけ幅広い立場の人が参加する会議となるように、地域代表の参加者等の検討が望まれる。会議内容は入居者の概要や事業計画の報告、参加者からの質問や意見をもとに検討をしている。後に職員にも報告がされている。会議内容に関してはテーマを決めて行うなど、今後の期待される。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	ホームの苦情窓口並びに公的窓口を紹介すると共に、玄関に意見箱を設置している。利用者の暮らしや健康状態の報告は、家族等の訪問時、電話連絡、ホームたより等で行っている。ホームでの生活の写真を掲示したり、個人別アルバムを作成していつでも見ることができるようにしてあり、報告のきっかけにもしている。利用者の話を聞いたり相談にのったりする介護相談員を月に1回受け入れている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には加入していないが、ホーム入り口に椅子を置いているので利用者・職員共に道路を通る人にあいさつしたり、散歩中、周辺の人たちとあいさつを交わったりしている。また、市や地域の行事に積極的に参加して、地元の人たちと交流を図っている。ホームたよりを運営推進会議参加者に配布したり、市の窓口・コミュニティセンターに置いて、地域の人たちにグループホームを知ってもらうようにもしている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理事長によって法人の理念「敬愛」がつけられ、基本方針に地域密着の方針をあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念・方針をホーム内のいたるところに掲示し、職員会議でも意識付けがなされており、日々取り組みに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入していないが、ホーム前や周辺の人たちとあいさつを交わしたり、市や地域の行事に積極的に参加して、地元の人たちと交流を図っている。ホームだよりを運営推進会議参加者に配布したり、市の窓口・コミュニティセンターに置いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的を理解し、全職員で取り組んでいる。またサービス評価を質の向上に向けて真摯に前向きに捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・市行政・地域代表として民生委員であり、且つ法人理事の人が参加している。会議では入居者の概要・事業計画と報告や参加者からの質問や意見を共に検討している。職員にも報告がされている。	○	参加者は、できるだけ幅広い立場の人が参加する会議となるように、地域代表の参加者等の検討が望まれる。また、内容もテーマを決めるなど、今後が期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは介護保険のことで密に連絡をとっている。また、グループホームの協議会がないので、市と話合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人全体の年間研修計画の中で権利擁護に関する研修を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時、電話連絡、ホームたより等で報告を行っている。ホームでの生活の写真を掲示したり、個人別アルバムを作成していつでも見ることができるようになっており、報告のきっかけにもしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情窓口並びに公的窓口を紹介すると共に、玄関に意見箱を設置している。利用者の話を聞いたり相談にのったりする介護相談員を月に1回受け入れている。	○	家族会など家族同士の話し合いの場を設け、不満や苦情等を話しやすい仕組みをつくることが望まれる。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者との関係性について理解はしているが、退職や異動による職員の交代が見られる。移動があったとき、職員は、コミュニケーションを多くするように心がけ、馴染みの関係の構築を心がけている。	○	異動や離職を抑えることが必要である。止むを得ない場合は、その時期や引継ぎの面で最善を尽くされることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢を問わずに採用されている。職員は勤務しながら大学や通信教育を受けるなど、自己開発の推進に努力すると共に、管理者は職員の自己実現に協力的である。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部の勉強会で人権教育を行っている。利用者一人ひとりの人権を尊重するためにも、謙虚な気持ちで、真剣に耳を傾けるという行動指針にも基づいて努力されている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体と事業者それぞれ月に1回ずつ内部研修会を開催している。外部研修参加後は、伝達研修を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	大川市にグループホームの協議会がないので、隣接する市町村のネットワークに参加している。	○	できるだけ多くの同業者との交流が望ましいので、市内で協議会を作ることが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者や家族に見学してもらったり、希望者には体験入所してもらい雰囲気に馴染んでもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	畑仕事、ハンカチづくり、おやつづくり、調理など一緒にしたり、料理の評価を受ける中で、喜怒哀楽を共にし、人生の先輩として利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	「敬愛」の理念に基づき、日常の生活の中で傾聴することに徹し、個々の意向を把握して、できる限り本人の希望に添えるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	月1回のカンファレンス及び家族との面会時での話し合いを基に、介護計画者担当者と職員全員で十分に検討しながら、それぞれに合った介護計画を作成している。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	半年に1度の定期的な見直し、ならびに日々の介護記録から見える状態の変化及び本人や家族の要望に応じて現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に合わせて通院介助、外出、外泊など、その時々希望に添えるよう柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と十分に話し合い、それぞれのかかりつけ医院への受診、定期往診の他、必要に応じての診療が受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末介護の実際はないが、重度化や終末介護について本人や家族及び関係者との話し合いをもち、支援ができるよう体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみを込め、時には方言で明るく接して、よい雰囲気ですて声かけている。また、個人情報の取り扱いにも十分に配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の所要時間、入浴、散歩、リビングでの憩いの時間など、個々のペースに合わせての支援ができている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの重要な要素であることを認識し、個々の状態に合わせての調理、盛り付けに気を配り、行事食など季節に合わせた食事が楽しめるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のその日の体調と希望を確認しながら、入浴の時間や順番に配慮しながら支援している。現在、最後に入浴する人は19:00～20:00間に入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の購入、調理の下準備、盛り付け、洗濯物たたみ、畑仕事、レクリエーションの進行係など、日常生活の中で、自然体で個々の力を生かした支援ができています。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は買い物や散歩に戸外へ出かけるよう声掛けしている。コンサート、バスハイク、温泉、神社、市外のクリスマスイルミネーション観賞など、市や近隣の資源を積極的に活用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や門にセンサーを設置して、施設を開放しているため、全体が明るく感じられる。不穏状態をつくらないよう安全面に配慮しながら、自由な生活の支援ができています。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年に2回の訓練を実施している。全職員への防火器具、避難誘導の周知、有事の際の各関係機関との連携体制及び食品の備蓄、停電時の対応など、災害時の体制が整えられている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分の摂取量をチェック表を基にして、本人の状態にあわせて内容、形態等を考慮しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの日当たりよいところに畳敷きの共用の場所があり、廊下の各所に数名が掛けられるソファを設置している。観葉植物の鉢も置いてあり、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には在宅時の馴染みの家具や、希望により量を持ち込み使用されている。個性的で、それぞれ居心地良い居室になっている。</p>		